

## 北九州市立図書館指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 第1回検討会 令和3年 9月30日(木) 13:00~14:46  
第2回検討会 令和3年10月 7日(木) 14:00~15:12
- 2 場 所 北九州市立子ども図書館 2階 大研修室
- 3 出席者 (検討会構成員) 宮本構成員、中尾構成員、古賀構成員、  
尾場瀬構成員、増田構成員  
(事務局) 教育委員会中央図書館長、庶務課長、奉仕課長  
庶務係長、奉仕係長、担当者  
子ども図書館長、企画係長

### 4 会議内容

#### [第1回検討会]

- 構成員の互選により、座長を選出
- 議事次第、選定基準、採点上の注意事項等について、事務局より説明。
- 応募団体（日本施設協会・図書館流通センター共同事業体）より、小倉南図書館の提案概要に関してヒアリング及び質疑応答

(構成員) 提案書を見たが、「すごく良い」と思った。小倉南図書館が独自に小中学校の読書活動の状況を把握し、何をやるべきかモデルとなってやっていたとしても良いのではないかと思う。

小倉南図書館のヤングアダルトコーナーの状況を見ると、一般室にちょっとあるだけで、本当に寂しい状態になっている。

全国の状況を見ても、大人が本を薦めても中高生には響かない。本を選んだ理由を尋ねると、友達に薦められたからとのこと。むしろ本好きな子から薦めてもらうなど、子ども達の目線で広げていった方が良い。

提案にあるように、読書感想文の講座を中高生のビブリオバトルへ展開させるような取り組みをどんどんやっても良いと思う。

(応募団体) 参考にさせていただく。

(構成員) 学校図書館との連携について、学校図書館の司書の方と話をする機会があるが、学校によってやり方がバラバラである。

今後は、賑わいづくりが大事で、これまでも成功事例が多い。

長期マネジメント計画に基づいた行動を起こしてやれば、より面白

い、充実した内容の連携が実現できるのではないかと思います。

(応募団体) 図書館として、受け入れを待つのではなく、図書館から積極的にアプローチして、連携を深めていけたら良いと思う。

(構成員) 図書館がまちづくりコミュニティの核となる施設ということで、幅広い努力をされていると思うが、これまでの状況とこれから新たに取り組む内容を説明していただけると嬉しい。

まずは、障害者のボランティア活動のことがよく分からなかった。また新しい動きとして、点字図書館との連携について具体的な説明をお願いしたい。

(応募団体) まず障害者のボランティア活動の現状について、障害者の方をボランティアとして受け入れたことはない。

障害者と図書館の関わりについては、隣に小倉南特別支援学校があり、同校のデュアルシステムに協力して、学生さん達が働くことの満足感を持ち、様々な経験をすることに寄与している。

また、カフェテリアでの実習にも入っていただいたこともあったが、飲食物や金銭を扱う面での困難があり、今後の課題として考えている。

点字図書館との連携については、これまではデジ書目録の受入れや対面朗読室での音訳サービス等の体制ができていたが、実際にはそれらの利用は無かった。

課題として、潜在的に小倉南区内にどれ位の視覚障害者の方がいて、小倉南図書館でも点字図書館と同様のサービスを受けることができることをご存知なのか明確に把握できていない点がある。

個人情報等の問題で状況把握に難しいところもあるが、小倉南図書館でも提供できるサービスについて、点字図書館と連携しながら情報発信を行っていききたい。

また図書館の職員についても、積極的に点字の音読研修を実施するなど、受け入れ態勢の充実を図りたい。

(構成員) 視覚障害の方も身近な図書館に行ってみたいと言っているので、小倉南図書館でも点字図書館と同じようなサービスが受けられるよう関係者と検討いただきたい。

(応募団体) 我々も更に勉強してまいりたい。

(構成員) 広報のあり方について伺いたい。私は小倉南区内に住んでいるが、図書館の情報を得るためには、こちらから求めていかないといけない。

また小倉南図書館のカフェに行こうかと思いき、行くと休みだったりする。コロナ禍でやむを得ないのかもしれないが、カフェの魅力

がもう一歩乏しいような気がする。

イベントを開催するにあたり、集客の努力はされていると思うが、これまで来なかった人をどのようにして集めるのか、図書館のことをどのようにして知ってもらうのか、その取り組みはどうされているのか。

(応募団体) 現在、主な広報については、図書館ホームページでの行事の紹介やお知らせなどがある。また最寄りの JR 城野駅に図書館の広報誌を置いている。

ただホームページや広報誌は、本に関心のある人しか興味を示さない。図書館を利用したことのない方に興味を示してもらえるような情報発信をすることが課題になっている。

そういった意味では、待ち構えるだけでなく、こちらから外に出向いて行って、PR をしないといけないと感じている。

また他の図書館の事例として、市民センター講座において、図書館の使い方講座や図書館の魅力を紹介する講座を実施したところ、直ぐ、次の週に講座の参加者が来てもらったことがあった。

このように図書館以外の施設とも協力しながらの情報発信にも力を入れていきたい。

(構 成 員) カフェテリアは当初から赤字の計画となっているが、これについては改善できないのか。

(応募団体) カフェテリアについては、コロナ禍の影響もあり、苦しい状況にあるため現実的な数字を計上している。

またカフェテリアにはガスが使える厨房設備が無く、提供できるメニューが限られてしまっていることが要因の一つである。

(構 成 員) 平成 29 年度から指定管理業務を受託して、様々な問題に直面し、対応されてきたと思う。こういう機会であるので、「この制約が無ければ、こんなことができる」というような、意見をお持ちか。

(応募団体) 一番お願いしたいのが図書の実質である。我々も図書館利用を増やすに当たって、数値目標を達成できるような計画を立てている。

しかし、毎年、図書購入費が減ってきているのが現状である。十年前と比べると（地区館当たり）数百万円の予算が削減されている。

利用者からよく言われることが、土曜、日曜日に新刊本目当てに行っても本が無い。新刊本が無いというイメージが定着してしまうと、図書館への足が遠のくということになりかねない。

まずは図書購入費の維持をお願いしたい。

もう一つは、小倉南図書館が市立図書館の中で年間の利用者数、貸出冊数が一番多く、他の利用の少ない館と比べると 3 倍近くの差が

ある。

しかしながら、年間の予算規模は同額程度になっており、利用者一人当たり新刊冊数などで不公平感が出ているのではないかということがある。利用の多い図書館に多くの予算を配分するような、利用規模に応じた予算を配分することも、一つの手段ではないかと思う。

またこれまで指定管理業務の更新をしてきたが、指定管理料については、三期、四期前と比較してもほぼ変わっていない、むしろ減っている状況にある。

前回の小倉南図書館の選定時と比べても指定管理料は変わっていないが、人件費＝最低賃金は全国的に上昇しており、ここ数年でも何十円か時給は上昇している。

これを職員全体の年間給与に換算すると、人件費が百万円以上、上昇している。

またこれは図書館職員の給与に限ったことではなく、例えば清掃業者など施設の維持管理経費も当然上昇している。

このような指定管理料の据え置き、削減といった状況が続くと重大なサービスの低下に繋がりがねない。

勿論、サービスが維持できる内容の提案はしているが、こういう厳しい状況であることについてもご配慮いただきたい。

最後に要求水準の中で司書率が75%以上とする条件が掲げられている。図書館という専門性が求められる性格上、司書の配置は非常に重要なことであり、現在、我々が指定管理を行っている図書館では全て75%以上を維持している。

ただ、図書館を取り巻く情勢は変化しており、これまでのように司書の人材だけでなく、司書以外に教員や保育士の資格を持っている方に図書館職員に入ってもらえば、より多彩で質の高いサービスを提供できると考えている。

(構 成 員) 先ほどの応募団体のプレゼンテーションがあったが、全体を通して事務局へ確認したいことがあれば、ご発言をお願いしたい。

(構 成 員) 前年の指定管理料から、どの位下がっているのか。

(事 務 局) 指定管理料は今回と前回は同額である。

(構 成 員) 収益は上がっているから、会社としては問題ないのだろうけど、人件費はこれから上げていくべきなのではないかと思う。

(構 成 員) プレゼンテーションを聞いた中では、しっかり勉強されているし、いろいろな研修を行っていることは分かった。ただこれらの事業を図書館だより等で広報し、結果のみを報告するだけではなく、次に繋げるために、もう一つ利用者を誘い込むような工夫をお願いしたい。

また市民センターとの連携を取ることはとても良いことであるが、今の市民センターだよりをみても、図書館については図書の新刊の紹介だけになっている。

もっと図書館のいろいろな活動を紹介するなどの地域発信をやっていけば、今まで来なかった人も気軽に訪れるようになると思う。

(構 成 員) 周辺にあるある福祉関係施設に図書館と連携等について尋ねてみたが、近年のコロナ禍の状況もあり、あまり上手く出来ていないようであった。

また施設が開館まもなくの頃、車椅子の貸出し方法について、尋ねたことがあったが、よく理解できていない様子だった。

今後、バリアフリー法関係についても、色々なケースが出てくると思うが、これに対しては、中央図書館が中心となって取り組んでいただきたい。

(構 成 員) 先ほど、カフェテリアの話の中で厨房設備がなく、ガスが使えないとの説明があったが、中央図書館として対応等は検討しているのか。例えばキッチンカーの配置は可能なのか。

(事 務 局) カフェテリアの厨房については、理由として、まず予算、敷地の面積、レイアウトの関係で設置に至らなかったと聞いている。

それからキッチンカーについては、公園内での使用許可を取れば、設置は可能であるので、行政として支障は無いと考えている。

(構 成 員) 以前、小倉南図書館の駐車場が混雑して入れず、渋滞して揉めているとの話を聞いたことがあるが、最近はどうか。

(事 務 局) 当初は駐車場での渋滞はあったが、最近はそのような状況についての話は聞いていない。

(構 成 員) スタッフの給与が上がらない計画になっているため、専門性が高まっても給与が上がらないと、モチベーションは上がらないことは、容易に推測はできる。

(構 成 員) 会社としてこれだけ収益を上げているので、現実的には上げていると思う。実際と計画とはかなり違う。

これはコロナ禍の影響で人数も減らしているなので、経営者の運営手腕でこれだけの収益を上げていると思う。だから分配をどう考えるか、内部留保をどれくらい持つておくかは、経営者の判断による。

- 次回の検討会で、各構成員が検討シートを持ち寄り、検討会としての審査結果を取りまとめることを事務局より説明し、第1回目検討会終了。

## [第2回検討会]

○ 構成員は、小倉南図書館に対する応募団体の提案内容のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を発表。その後、構成員全員で意見交換を行った。

### ・「適性」についての意見

(構成員) 全国規模のネットワークを生かしていることなど、十分な能力がある。

(構成員) 市内の企業と、全国規模で運営されている実績のある企業の共同体であるということも期待できる。

(構成員) 財務状況は両社とも自己資本比率が6割程度あり、問題なく、健全である。

(構成員) コロナ禍でも図書館サービスを充実させている。

(構成員) 図書館の役割、理念を持っているが、障害者への対策が弱い。

### ・「有効性」についての意見

(構成員) 中央図書館と他の地区図書館、文化施設との連携に期待できる。

(構成員) 「パスファインダー」は市民にとっては有難い手引きである。

(構成員) 子ども読書プランに沿った提案事業が示されているが、現実性に欠けるのではないかと懸念している。

(構成員) ソフト面では真摯に取り組んでいるが、駐車場、カフェの利便性は乏しい。

(構成員) 周りに複数の障害者施設があることを考えると、障害に関する取り組みが少し弱い。

### ・「効率性」についての意見

(構成員) 市内で複数施設を運営しているので、スケールメリットによる経費削減効果を発揮させようとしている。

(構成員) 地域の団体等を活用するなど努力している。

(構成員) 職員の処遇面の改善に配慮して貰いたい。

(構成員) 収支計画書にメリハリがない。

### ・「適正性」についての意見

(構成員) 職員の能力向上について、様々な研修への参加を計画しているのは評価できる。

(構成員) 子どもの安全性を考えて危険箇所に対応しているのを目の当たりにしたので安全対策は高評価にした。

(構成員) 計画がしっかりと書かれており、発表者の印象も良かった。

(構成員) これからは、やはり命を守る安全対策を一番大切にしていきたい。

(構 成 員) 管理運営体制については、概ね妥当だが新規事業である読書バリアフリー法関連に対応するための「準備の視点」が見えてこなかった。

- 協議の結果、検討会として評価レベルを、  
「適性」(1) 施設の管理運営に対する理念は**4**、(2) 人的・財政基盤は**4**、  
(3) 実績・知識は**4**、「有効性」(1) 設置目的の達成は**3**、(2) 利用者満足度は**4**、「効率性」(3) 指定管理に係る経費は**4**、「適正性」(5) 管理運営体制等は**4**、(6) 平等利用等は**4**に決定。
  
- 事務局は合計得点を発表し、検討会は、日本施設協会・図書館流通センター共同事業体が市の要求水準を満たしており、十分な能力を有していると認めた。